

瀬戸SOLAN小学校第1学年・学年通信



スポーツフェスティバル終了!

10月22日、爽やかな秋空の広がる中、無事に第二回のスポーツフェスティバルが終了しました。当日の様子を、写真ダイジェストで振り返ります。



開会式です。全校児童がグラウンドに集まっての整列するのは、おそらく第1クォーターの避難訓練の時以来です。

かつては、毎月全校朝会でグラウンドに集まる学校も多くありましたが、現在はその数もどんどん減ってきています。

長時間、立ったままの状態で校長先生の話聞いていた場面は、今では学校文化の中からほぼ姿を消したと言えるでしょう。(私が子供の頃は、全校朝会のたびに誰かが貧血で倒れていた記憶があります。同じ体験をしたという方はおられるでしょうか?)

先の全体の集合写真を見ても、時代の移り変わりを感じます。

尚、こうして列を整えて座り、校長先生の話に耳を傾けられるようになった1年生のみんなの姿にも大きな成長を感じました。

そして、その姿が見られた背景には、お家の方々の見守る視線があったことも多分に影響していただろうと思います。

練習の時よりさらに凛としたかっこいい姿が随所に見られたからです。



全体で英語版のラジオ体操を終えた後は、SOLAN 自由競技です。

スポーツフェスティバルが従来の運動会と大きく違うのは、この個人競技がある点だといえるでしょう。

各ブースを子供達が周って各々自己ベストを目指す形式の競技で、子どもたちは思い思いの場所に行き、20種類以上の種目を楽しみました。

この自由競技の様子を見ていると、「体を動かすこと」とは、本来とても楽しいものであることを改めて感じます。

運動会というと、徒競走なり綱引きなり、いずれの競技においても「競争」が設定され「勝敗」がつくものです。

そして、この場の作り方によって、必要以上に人と比べて運動が嫌いになったり、運動会そのものを嫌うようになる子たちも少なくありません。

競争自体が全て悪いわけではもちろんありませんが、過度にそれを体育の学びに求めすぎることによって、本来スポーツにあるはずの「楽しさ」や「充実感」が損なわれることは非常にもったいないことだと言えます。

私も大人になってからフルマラソンを始めましたが、誰かと比べるというより、そもそも走ることは爽快ですし楽しいものです。それこそが、生涯スポーツとして今でも運動に取り組む原動力にもなっています。

だからこそ、学校教育の場においては「その勉強を嫌いにさせない」という視点が極めて大切であると言えます。

必要以上に競争の原理を持ち込んだことによって、生涯にわたっての「運動嫌い」を生んでしまったとしたら、まさに本末転倒です。

その種目において専門的に技を磨いたり学んだりしている場と、学校で体育という授業を通して広く運動に取り組む場との間には、上手に運用の仕方を工夫していくのも大切であることを自由競技の様子から改めて感じました。

ちなみに、教員再度はそれぞれの種目を運営していた為、他のブースの競技を体験できなかったことだけが若干の心残りです。ご覧になったお家の方々はどの種目が面白かったか、また教えて貰えると嬉しいです。





続いての種目は学年競技。

一年生の種目は「借り人競争」です。

子どもたちがめくったカードに対して、立候補スタイルでお家の方々に参加していただく形で実施した SOLAN では初開催のこの競技。

カードがめくられるたびに歓声が上がリ、さらにお家の方々が我こそはと手を上げながら駆け寄ってきてくださる度に拍手が起こりました。

作り上げた側からすると、学年全員分のカードを考えるのに非常に骨を折ったわけですが、当日のみなさんの笑顔や拍手を見ていて本当に実施してよかったなあと感じました。

もしまた次回行う場合は、コース取りの仕方やカードの中身もさらにブラッシュアップを加えて、よりよい形で実施したいと考えています。

個人的には、競技を終えた後にマイクパフォーマンスに対してねぎらいの言葉をかけて下さる方々がたくさんいて、大変励まされる思いがしました。

今回この種目を発案した根底には、「SOLAN につながる方々のことをもっとお互いに知りたい」という思いがありました。

「〇〇さんは東北出身でいらっしゃるんですね！」

「〇〇先生はテコンドー経験者なんですか！」

「〇〇さんは中国語が話せるんですね！」

「あの方がバスティーチャーでいらっしゃるのかぁ」

「長尾理事長が水球の経験者とは知らなかった！」

競技を通して、SOLAN を支える方々の「人となり」が少しでも皆さんで知る機会になれば素敵だなあと考えたのがきっかけでした。

子どもたちから見ても、自分たちを支えてくれている大人たちが和気あいあいと競技を応援して盛り上げてくれている雰囲気を感じられることは、この場でこそ体験できる唯一無二のギフトにもなると思ったのです。

お家の方々の声はとても強い影響力を持ちますので、もし来年度も実施を希望する場合はその旨をぜひ教えていただければと思います。



そして最後は全校競技。

大人と子供が入り混じって、盛大な玉入れが行われました。

1回戦目の「ルールを破ったから子どもの負け」という山田先生のジャッジは流石でしたね。

スポーツに取り組むということは、体や技を磨くだけでなく、心を磨くこ

ともつながります。

それは、ルールを守ったり、仲間と力を合わせたりする中で大きく磨かれることは間違いありません。

競技の笛が鳴ったと同時に球を投げ入れるのをやめる大人たちと、勝ちたい気持ちが先走っていつまでも球を投げ続ける子どもたち。

この対照的な姿には、まさに双方の「心」が現れていました。

その後の山田先生のジャッジを聞いて、子どもたちはきっとそこから大切な学びを持ち帰ったはずです。



尚、会全体を運営してくれた人の中には、上級生たちの姿もありました。

1年生のみんなも、いつかはこうしてフェスティバル全体を支える日が来るのでしょうか。

保護者の方々のボランティアをはじめ、今回のイベントは多くの方々の助けがあって初めて開催することができました。

改めて、心から感謝申し上げます。素敵な一日を陰ひなたとなってガッチリ支えていただき、ありがとうございました。（渡辺道治）

（スポーツフェスティバルのご感想など気軽に教えていただけると嬉しいです。紙面へのご意見ご感想などもいつでもお寄せください。）



[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](https://www.google.com)